

座談会

社員旅行今昔



参加者



濱名輝彦
(1994年入社)



生井慎一
(1986年入社)



渡邊裕美
(2006年再入社)



神保友彦
(2005年再入社)



中島秀治社長
(1986年入社)



司会



トビー
(2012年命名)



川幡映実
(2011年入社)

きっかけは先代会長の発案



東邦運輸の社員旅行はいつから始まったビー?

川幡: はっきりしているのは1985年の伊豆旅行です。その後、1980年代に3回、90年代に6回、そして2000年以降では、2002年に長崎、2018年に日光と2度です。

中島社長: それ以前は、毎年のように行っていたらしいです。そもそも社員旅行をしようと言いついたのは、先代です。日頃、お世話になっている社員の方たちの慰労ですね。伊豆大島とかスキーへ行ったこともあるようです。その頃はマイクロバスを借りて、お酒を飲まない鈴木(健夫、1972年入社)さんが運転したそうです。

生井: 私が参加した1989年の伊豆旅行の時もマイクロバスでした。

渡邊: 私は日光(2018年)で初めて参加しました。以前在籍していた時はアルバイトだったので留守番を

していたんです。社員として復帰してから「社員旅行に行きたい」とお願いしたら実現してくれました。おもしろかったですね。「ツインリンクもてぎ」を貸し切りにしてくれたり。その他とても豪華でした。

社員旅行の恒例あれこれ



旅行の企画は誰が立ててるビー?

中島社長: みんなの声を集めて、細かいところは昔から付き合いのある旅行代理店に任せています。目的地の希望やコンパニオンさんの好みまで、うちのことを完璧に把握しているし、細かな注文にも応じてくれる。2002年に長崎へ行ったのは飛行機を利用したかったからです。ふだんトラックの運転ばかりしていて飛行機に乗ったことがない者が多かったんです。みんな喜んでくれました。山崎所長(1993年入社)は、空を飛ぶのにビビってましたけどね。

神保: おれもビビった。やだ、飛行機は。笑。



社員旅行の恒例といえばなんだビー？

渡邊：コンパニオンを呼ぶらしいですよ。

神保：それはやっぱり楽しみだよな。

濱名：地元の人たちとの交流です。笑。

渡邊：宴会のまえに表彰式があるのも恒例です。

神保：勤続表彰、年間無事故表彰、皆勤賞ですね。

中島社長：それ以外に特別賞があります。先代は自分ではあまり飲まないのに、宴会が盛り上がると、「特別賞を出すぞ」と調子がよくなるんです。金一封を贈るんですが、突然言い出すから現金の用意がない。それで右往左往したこともありました。

やんちゃだった、かつての社員旅行

神保：バスで出発するまえから飲み始める。これも恒例です。

生井：マイクロバスで行っていた頃は、本当にガラが悪かったんです。マイクロバスの中でどんちゃん騒ぎをしたり、隣を走っている車にいちやもんをつけたり。宿泊先で、他の運送会社と同宿するとケンカを始めた。

中島社長：昔は「みんな死んじゃうんじゃないか」と思うくらい飲んでましたから。準備した分では足らずに途中で酒屋へ寄っては酒を買い込んだりして。

生井：今とでは飲むペースが違います。

中島社長：行動も無茶苦茶でした。旅館の浴衣を持って帰ってきて、会社が謝りに行ったりとか。今は無茶をしなくなりました。直近の日光の時（2018年）も、帰路はほとんど飲まなかった。会社からは自家用車で帰宅するし、翌日のことも考えてくれたのでしょう。準備しておいたお酒が残ってしまったほどです。

神保：恒例ではないけれど、バスの運転技術を見ってしまうのは、運送会社の旅行の特徴じゃないでしょうか。長崎の時（2002年）は乱暴だった。アクセルをベタ踏みで。たしかダンプの運転手だったと言っていました。でも伊東の時（1992年）の運転手はうまかった。街中の狭い道をギリギリで抜けていく。もう車内は大拍手。バスの運転手は、運送会社の団体は乗せたくないだろうね、たぶん。笑。

「みんなで」が大切



飲む話ばかりビー！

中島社長：そんなことはありません。経営者の旅行などへも参加しますが、東邦運輸の社員旅行は、案外まじめです。東照宮も真剣に観ていたし。

濱名：飯坂温泉へ行った時（福島県、1993年）は「あぶくま洞」を観光したりとか。

神保：仕事では個人行動が多いですからね。みんなで盛り上がる社員旅行は楽しい。

生井：行く先にかかわらず、みんなで集まれるというのはいいですよな。

渡邊：社会科見学をしたのも楽しかったし、くじ引きで宴会の席を決めるのもよかった。シフトや営業所、職種のちがう人などは、ふだんなかなか話ができませんから。そういうのもよかった。

中島社長：くじ引きは「仲良しで固まるのはよくない」と会長が始めたんです。

生井：日光（2018年）で一番盛り上がったのは、「ツインリンクもてぎ」のカートレースでした。

渡邊：カートレースはすごく楽しかった。1チーム4人で8チームに分かれて対抗戦をやったんです。でもチームの足を引っ張る人はいました。カートだから攻めていいのに、ふだん安全運転を心がけているので、そう簡単には変えられない。笑。「もっと飛ばせよ！」みたいなの。でも、それも含めておもしろかった。

川幡：どなたが優勝されたんですか？



濱名：おれと渡邊さんのチーム。カートはカーブでGがもろにかかるから、あれがいい。

神保：チーム対抗戦は盛り上がるよね。

中島社長：童心に帰るといふか、みんな大人げないのがわかったよね。笑。本当は、「もてぎ」は費用が高かったんです。でも中島専務（1991年入社）がどうしても行きたいからというので実現した。ところが企画した本人が行けなくなった。

渡邊：専務はリベンジしたいでしょうね。また行きたいです。

川幡：私は運転より、みんなが盛り上がるのを見るほうが好きです。宴会で騒ぐのもいいですけど、みんなで見たり、体験したりするほうがいい。

渡邊：みんなでワイワイやるのが一番。

川幡：夏の納涼祭も復活しました。

渡邊：でも私は戦いたい。笑。運動会とかやりたい。リレーとかグダグダだろうけど、それが面白そう。

川幡：それを映像にとって、後で観ると楽しさが2倍3倍です。

中島社長：他社とうちの社員旅行が違うのは、みんな

が行きたいところへ行くといい点かな。実は2002年から2018年までは16年間も社員旅行をしていなかった。それより現金を支給されたほうがうれしいという社員の声があったので、会長が止めたんです。ただもう一度、「やりたい」という声が挙がった。それで復活した。会社主導というより社員主導です。会社が「行くよ!」ではなく、みんなの「行きたい!」という声に応える社員旅行にする。これは変えずにいきたいと思います。

川幡：次は私も参加したいです。



1970年半ば伊豆旅行。写真一番左が故・中島進元常務。



1996年群馬県磯部温泉へ移動中のバス風景。



2002年長崎旅行。平和公園にて。



1970年代半ば伊豆旅行。左が鈴木健夫さん、右が故・佐藤泉部長。



2002年長崎旅行一幕。



2018年日光旅行。大好評のカートレース。